

▼CNCP からのメッセージ

土木と市民社会をつなぐ実践活動にむけて4
—理事会の意見を踏まえた今後の活動方針—

シビル NPO 連携プラットフォーム 常務理事/事務局長
土木学会/シビル NPO 推進小委員会 副委員長
メトロ設計(株) 取締役

田中 努



1～3月号に続き、「土木と市民社会をつなぐ実践活動にむけて」の4回目です。今回は、2/22（火）の令和3年度第2回理事会でいただいたご意見を踏まえた「今後の活動方針（これまでの活動を見直す視点）」です。「土木と市民社会をつなぐ活動」は、人が変わり社会が変わって行くため、たぶん永遠につづく運動です。したがって、その「目的」を達成するための具体的で実現可能な「目標（ショートゴールとかマイルストーン）」を設定して取り組むのがよいと思います。それを目指して7つの方針とスケジュールを整理しました。

■住民と一緒に地域のインフラの課題を考える切っ掛けづくり

市民に一方的な「広報」をしても、心が動かなければスルーされます。しかし、自分が住むまちの課題が分かれば、気になる住民は多いでしょう。住民と一緒に、地域の社会課題を考え、調べ、解決を目指せば、自ずと、土木と市民社会はつながっていくのでは？ シビル系の技術者・専門家が参画すれば「市民科学（市民工学）」が生まれます。例えば、多くの自治体で行われている「市民協働事業」への参画は、近道と思われれます。ただし、事前に、自治体や住民とよく話し合わなければ、地域の社会課題は分からないし、的を射た解決策も提案できません。

■戦略 PR

この「PR」とは、パブリックリレーションのことです。公的な事柄を相手と結びつけて、空気を作り出し、なるほど・・・と思わせること（CNCP 通信3月号「土木のPRとは何か」参照）。市民に伝えるだけでなく、そういう状況を生み出すところまでの戦略・計画が必要でしょう。

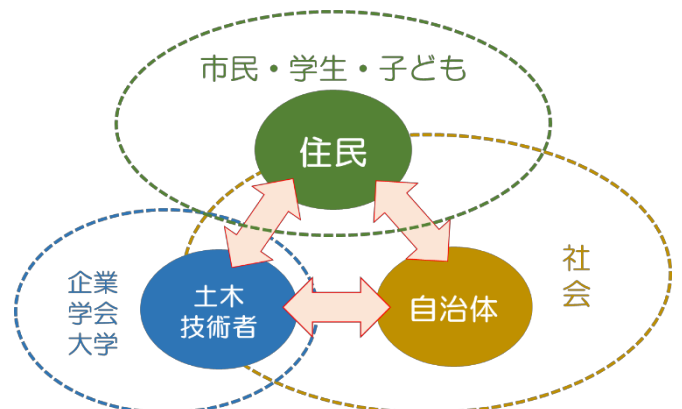
※参考図書

- ・「戦略PR/世の中を動かす新しい6つの法則」本田哲也、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2021/8/20
- ・「土木の広報」西村隆司・三上美絵・日経コンストラクション、日経BP、2014/5/14
- ・「土木の広報アクションプラン/伝える」から「伝わる」へ【最終報告書】土木学会社会コミュニケーション委員会土木広報アクションプラン小委員会、2013/7/31

■三方よし・企業内土木技術者への配慮も

近江商人の活動理念である「三方よし」は、現代の社会課題の解決でも必要と考えられます。「自分よし・相手よし・世間よし」の三方を満足させるように進めることが肝要です。土木技術者が参画することにより社会課題の解決が進むケースでは、土木技術者と住民と自治体の三方、そして、土木と市民と国の三方へ。

土木と市民社会をつなぐには、学会や NPO だけではパワー不足だと思います。企業と現役のシビル系技術者・専門家の参画も望まれます。企業にも「土木と市民社会をつなぐ活動」に参画する価値を伝える必要もあるでしょう。



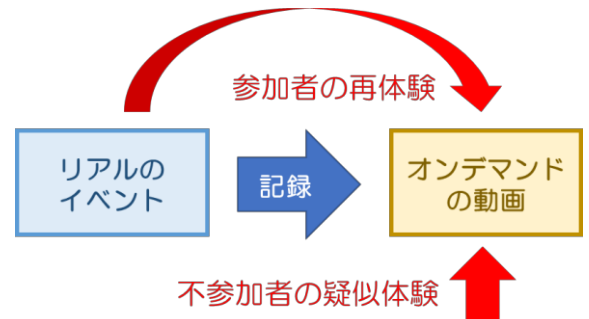
■オンラインシステムの活用

コロナ対応により、オンラインシステムの利用が進みました。その結果、リアルでは移動の時間や交通費の制約から参加・議論することが出来なかった（海外を含め）離れた地域の人との交流が大幅に促進されました。今後も、このシステムを活用し、多くの方々との双方向コミュニケーションを進めていくのが得策と思います。

■オンデマンドでの動画

リアルのイベントを行う場合は、参加した人たちの楽しむ姿を録画し、参加出来なかった人が見る（疑似体験）、参加者が後で見る（再体験）ことが出来るような対応が好評です。オリンピックでも同様なことが起きていますね。

リアルでは小さなイベントでも、いろいろな人たちが広く見ることが出来る仕組みが、コミュニケーションを上手くする効果的な方法と思われます。例えば、地方の小さなゼネコンが会議室で行う「土木のクイズ動画」が、拡散して、土木の理解につながっています。



■松竹梅の取り組み

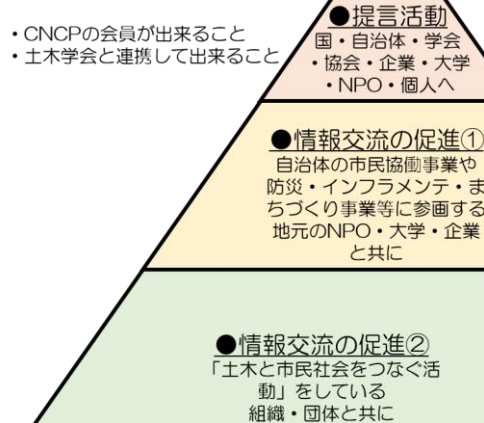
「土木と市民社会をつなぐ活動」は、様々な多くの人々と共に進める運動なので、力（リキ）まずに「松竹梅」の取り組み方を考えるのがよいでしょう。市民に認識・関心を持って貰うのが「竹」、協働するのが「松」。どの辺に軸足を置きながら、どういう方々にどういうことを伝えるのがよいか、議論していきましょう。市民とつなげる媒体も、若い世代を考え、動画・SNSがキーになるでしょう。

■インパクトのある活動をコアに

「インフラテクコン（右図）」など、分かり易い動きがあり成果があるものをコアにしなが、企業とのコネクションを持つための活動、広くアピールしていく活動、ネットワークづくりなどと展開して行くのがよさそうです。

土木学会の土木広報センターも、子どもを含めた市民との双方向コミュニケーションや連携・協働に取り組んでいますし、キッズや高専生とつながる小委員会もあるので、土木学会との連携など検討・協議して行きましょう。

「土木と市民社会をつなぐ」
ひろげる・つなぐ活動



●「情報交流」により、CNCPを知る人たちが増え、CNCPと共に活動する人が増え、プラットフォーム事業が増える。
●「情報交流」により、つなぐ活動をしている人たちの、横につなぐ、つないだ輪をひろげる。

最後に、今後のスケジュールです。まず、理事の方々に関心のある会員の方々から、ご意見・ご提案をお願いします。このCNCP 通信1～2ページで。投稿していただいた方から、あるいはグルーピングして、CNCP 通信に掲載し、皆さんに紹介します。CNCPの理事・会員の意見や提案が集まったら、それを基に、次は、CNCP外の方々に、ご意見とご提案をお願いします。そうやって、様々な視点からのご意見を頂きながら、具体化を進めていきたいと思ひます。皆さん、投稿をお願いします。